



卒塾おめでとうございます！

中永 健史 塾長からのメッセージ

第15期「京都教師塾」のご参加ありがとうございました。皆さんの熱心で真摯に学ぶ姿に教育の未来への希望と頼もしさを感じました。

約8か月間の受講を通して、教師を目指すにあたって抱いていた不安や心配の多くは解消されたことと思います。特に、今、教師に求められている実践的指導力の基礎・土台は、着実に身につけています。自信をもってください。

ただ、今は塾の余韻に浸ってはいけません。多くの方が挑まれる教員採用試験に向けて、改めて自らを振り返り整える時期です。最後の教育学講座でも伝えましたが、採用試験では、「これまでの努力の到達点」を示し、それを通過点と捉え「伸びしろ」として「学び続ける力・姿勢・意気込み」を表すことが大切です。また、最後まで諦めないこと。講義、塾生間の話合いやグループアドバイザーの助言、スタッフのレポートの赤ペン添削、フィールドワークで感じたこと等を思い起こし、加えて授業実践講座の具体的な場面での指導主事の指導助言の内容を蘇らせ、試験の、言葉でアピールする場では一言を、文字で表現する場では一行を、是非、付け加えてください。

卒塾生の皆さんの、今後のご活躍を願っています。



「学びの広場」は、皆さんの学びを支え、深めるためのツールです。これまで発行してきた「学びの広場」をこの最終号に綴じ、学びの足跡としてください。



卒塾の言葉



今日、私たち京都教師塾第15期生は、卒塾の日を迎えました。教員になるという高い志を共有し、多様なバックグラウンドをもつ多くの塾生の仲間たちと、ともに学び、議論を深め、みずからの考えを洗練・深化させることのできたこの教師塾での時間は、私たちにとって本当に大きな財産となりました。

私たち15期生の教師塾での学びもまた、昨年来猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響により、大きく形を変えることを余儀なくされました。2度の緊急事態宣言の影響で、私自身学校実地研修や京都市立学校でのフィールドワークに参加することはできませんでした。実際の学校現場で五感を使って学ぶ機会が失われてしまったことは、残念でなりません。しかし、そういった未曾有の事態に遭遇したからこそ、改めて教育や学校という場のもつ意味や意義、可能性について私たち自身が問い直す契機となったように思います。

そのような変化の中で、学びの場における「対話」の重要性を身を以て実感することができました。分散会でのグループディスカッションや、授業実践講座での塾生相互のコメントのやり取り、レポートスタッフの先生方が書いてくださるアドバイスなど、自らが発信した考えに対して他者が同意してくれたり、自分が思ってもみなかったことに対してもっとこうしてはどうか、と提案してくれたり、そのような一見当たり前のように見える他者とのやり取りが、こんなにも楽しく、学びを深めてくれるものだったのかと気付かされたのです。正解のない問に対してそれぞれがオリジナルの答えを紡いでいくことが求められるこれからの子どもたちにとっても、こうした対話は非常に大きな意義をもつものだと確信しています。

またそのような対話においては、他者へのリスペクトを欠いてはその内容が豊かなものになることはないと思います。教師が児童生徒から学ぶことは本当に沢山あると多くの先生が仰っていました。目の前の児童生徒ひとりひとりに対して、常にリスペクトの気持ちを忘れない教師、そして児童生徒同士がそれぞれの個性を認め合い、互いに尊重しあえる環境や場を整えることが出来る教師になりたいと、考えるようになりました。このように目指すべき教師像が少しずつ自分の中で明確になってきたのも、この教師塾での多くの方々と対話をする機会を得られたからに違いありません。そういう意味でも、この場で9か月にわたってともに学んだ塾生のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいです。

最後になりましたが、このような困難な状況の中様々な工夫をこらして、9か月間私たちにとって少しでも多くのことを学んでもらおうと尽力してくださった全ての京都教師塾のスタッフの皆様、本当にお忙しい中現場のリアルな様子を伝えてくださった現職の先生方や子どもたち、そして御縁あってこの教師塾という素敵な学びの場で学びを共有することのできた塾生のみなさんに感謝を申し上げ、第15期京都教師塾、卒塾の言葉といたします。

レポート担当スタッフからのメッセージ

斉木 光子 専門主事

塾生のみなさんへ。それぞれが学校へ通いながら職場で勤務されながらも、教師塾での学びをやり遂げられました。「教師になりたい」と自分の意志で入塾されました。『意志あるところに道は開ける』それぞれの本気度が夢の実現です。でも、迷っているなら『やらずに後悔するよりも、やって後悔する』。自分がどうするかです。心も身体も強く逞しく柔らかく、出会いとチャレンジで前進です。一度きりの人生です。卒塾おめでとうございます。

中村 隆 専門主事

塾生の皆さん、卒塾おめでとうございます。
「ソーシャルディスタンス」という言葉が世に出て長くなりました。それが大切だということが分かっていても、「目の不自由な人は困らないのだろうか」そして、「そのことを気にする自分がいるのだろうか」。
教師を目指すのであれば、『想像力』を失わずにいてください。教師塾は通過点にすぎません。教師は色褪せてはなりません。これからも自分磨きを続けてください。ずっと応援しています。



岸田 蘭子 専門主事

卒塾おめでとうございます。皆さんのレポートを読むたびに、教育に対する情熱の深まりとともに成長を感じていました。この教師塾で学ばれたことはきっと今後も役に立つことばかりだったと思います。ここで学んだ仲間とのつながりも大切にしてください。教育は志と心がけ、心配りが大切です。教師をめざすあなた方を教師塾は応援し続けています。ここでの出会いがきっと未来をひらくにちがいありません。がんばってください。

大村 隆之 主任指導主事

今年は色々な困難もありましたが、みなさんよく頑張ってくれましたね。講座の後、みなさん各々が、自分なりの考えやアイデアを、レポートのページ一杯に表現されているのを毎回嬉しく読ませていただきました。そして、将来の教育の世界を担っていこうとするみなさんの意気込みに頼もしささえ感じています。アドバイスの中には、経験してみないとわからないような内容もあるかもしれませんが、いつの日か教育現場で疑問などを感じたときは、読み返してみてください。みなさんの夢の実現とご多幸を心から願っています。

グループアドバイザーの先生からの



教師の仕事は、辛いことやしんどいことが少なくありません。しかしそれに勝る喜びや感動を、時には子どもたちと、時には自分一人や同僚と共に味わうことができます。それが原動力となり、また次に向かえるのです。この道に進もうと決めている人はもちろんですが、まだ決めかねている人はしっかり考えて、それでもこの道に進もうと決めるなら、謙虚な姿勢と初心を忘れず、まずは教師としてのスタートライン（採用されること）を目指して全力で取り組みましょう。みなさんの健闘を祈ります。（1組 大島 正彦先生）

大きな社会の変化、教育の改革が始まっています。成りたい自分になるために努力を惜しまず頑張ってください。あふれる情熱を胸に若き教育者として、少しずつ歩み始めてゆく皆さんを応援しています。（2組 田邊 慎一郎先生）

「先生」って呼んでもらえる素晴らしい職業です。だから、私たちは学び続けなければなりません。その心構えと、子に寄り添える気持ちがあれば・・・必ずできます。（3組 横山 貴子先生）

卒塾おめでとうございます。みなさんの熱心に学ぶ姿勢にはいつも感心させられていました。いつまでもその熱意を忘れずに学び続けていってください。みなさんの使命は、子どもたちが幸せな人生を送れるように、人を幸せにできるようにすることです。どうか子どもたちに誠実に向き合い、寄り添い支え導く先生になってください。応援しています。（4組 田中 佳子先生）

卒塾おめでとうございます。コロナ感染予防対策で、様々なことが予定変更される中、「教職に就きたい」という気持ちを大切にされていた姿に感心しました。そして、私自身も皆さんから熱意をたくさんいただきました。教育には重点がいろいろとありますが、確かな学力をつけることが必要だと思います。児童・生徒が「わかった！楽しい！」と思える授業を目指してください。また、児童・生徒への関りは授業だけではありません。児童・生徒を取り巻く環境にも心を砕かなければならない場合もあります。でも、やりがいのある仕事です。皆さんの活躍を心から祈っています。（5組 中嶋 和子先生）

京都教師塾第15期生のみなさん、6組GAの脇坂です。約5か月に及ぶ京都市教育学講座での学びを今後さらに深め、1日でも早く教壇に立たれることを期待します。子どもたちへの「深い愛情」と「熱い情熱」を胸に、「ゆるぎない信頼関係」が築ける素晴らしい教師になって下さい！（6組 脇坂 満先生）

子どもたちの成長には良き先生との出会いが大きく影響してきます。たかが一年、されど一年。子どもたちと過ごす一年は貴重な一年です。子どもたちはみんな素晴らしい可能性を秘めています。口だけではなく心から子どもたち一人一人を大切に考え、子どもたちの可能性を引き出せる先生になってください。そして謙虚な心・感謝の心を忘れず子どもたちとともに、楽しみながら学び続け、授業力をしっかり向上させていってください。応援しています！（7組 谷口 京子先生）

卒業式の直前になると、多くの学校で、「送る会」や、最後の学年集会が開かれます。卒業していく子どもたちはこれらの行事を通して自分の学校生活を振り返ります。同時にかかわった先生方も共に過ごした時間を振り返ることになります。そして卒業式を迎えます。卒業学年を直接担当していなくても心が動きます。（担当していればなおさらです。）うまく言葉で表現できませんが、何とも言えない充実した気持ちでいっぱいになります。この気持ちは他の仕事では絶対に味わえません。是非みなさんにも経験して欲しいです。目の前のハードルを1つ1つ飛び越えて、夢を実現させてください。そして子どもたちの未来のために頑張れる人になってください。（8組 森 千映子先生）

夢の実現に向かって、これからも様々な場で、様々な事・物からも学び、様々な人と語り合い、学び合い、成長していきましょう。どんな時も大切なことは、人への感謝と自分の強みを生かし自信をもつことです。そのために、今、何をしなければならないかを考え、一步一步前進していきましょう。私も学び続けながら、みなさんのこと、応援しています！（9組 野原 久美子先生）

入塾の頃より、講義・講座等を受けて、教師への思いが強くなったと思います。これからは、今までの教師塾を振り返り、採用試験に向けた取組を進めることで、より一層教師への思いを強くもつようになることと思います。そのことが採用試験に向かう気持ちを奮い立たせる源です。子どもたちの笑顔が待っています。頑張ってください。（10組 西村 弘滋先生）

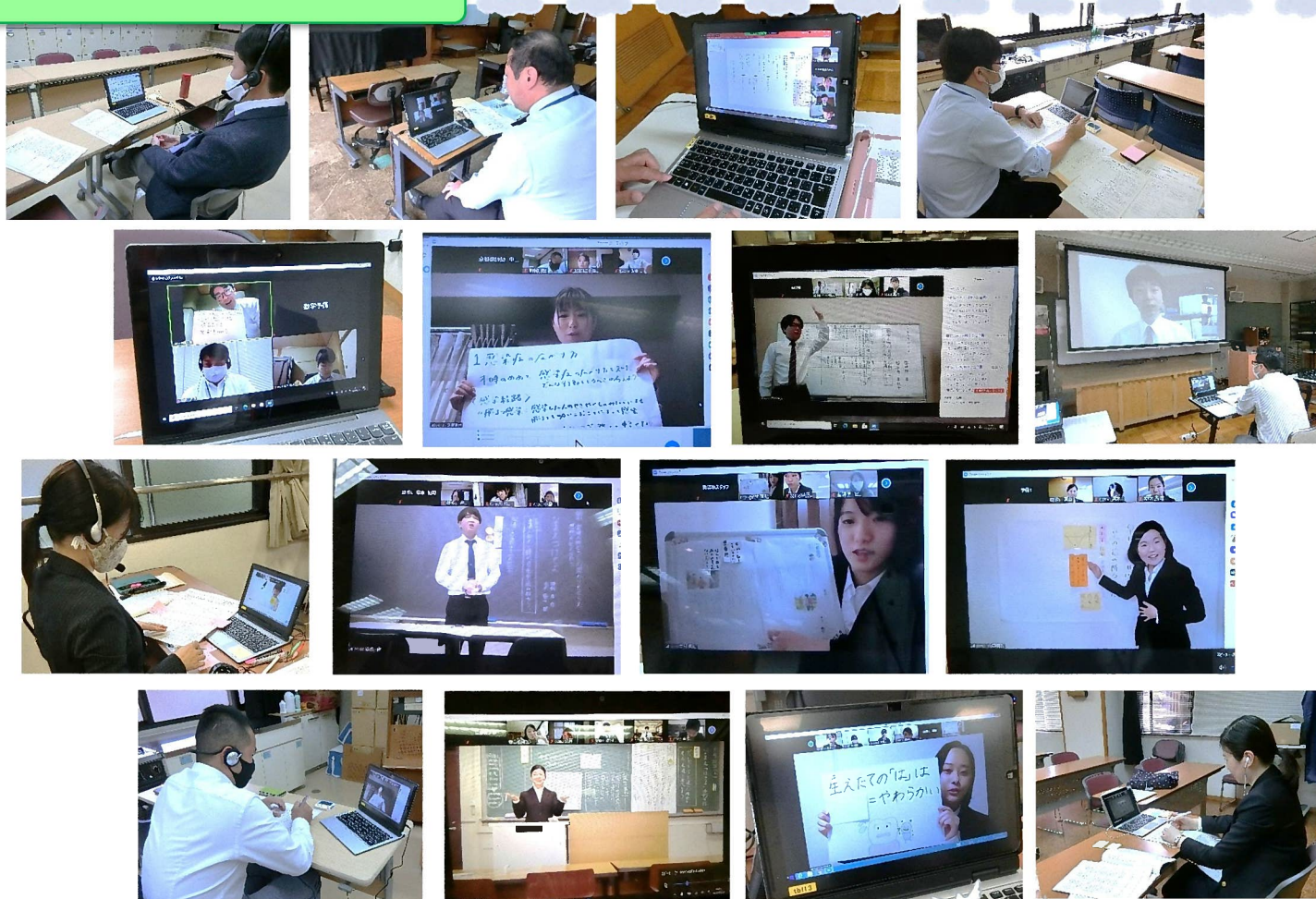
授業実践講座

最後の柱である「授業実践講座」が終わりました。5月の模擬授業は急遽リモートでの開催となり、準備も大変だったと思いますが、一人一人が創意工夫して授業に臨む姿が見られ、皆さんの成長とともに今後の授業の可能性も感じました。指導主事の先生からの指導助言を真摯に受け止め、これからも学び続ける姿勢を忘れずに取り組んで欲しいと思います。お疲れ様でした！

①4月10日 学習指導案作成



②5月8日・22日 模擬授業



京都教師塾スタッフ一同、15期生の皆さんの
今後のご活躍を願っています。
卒塾後も、教職に関する質問があれば相談に
のりますので、いつでも連絡してください。
約8か月間、本当にお疲れ様でした。



希望に満ちた大空へ！
YOU CAN FLY!